

ダム周辺の紅葉状況

昼夜の寒暖の差が大きくなり、ダム周辺の木々は色づいています。駒込ダム工事現場では紅葉シーズンが終盤～終了、下湯ダムでは見頃～終盤、浅虫ダムでは見ごろを迎えています。朝晩は寒いものの、昼間は歩くと清々しい気温ですので、休日に散策してみてもいかがでしょうか？

駒込ダム工事現場

【紅葉状況】・・・終盤～終了

駒込ダムの工事現場は標高が高い場所にあり、紅葉のシーズンは終盤を迎えています。場所によっては葉を残していますが、ほとんどが落葉しています。しかし、葉を落としたブナ林も紅葉に負けないくらい雄大な景色ですので、雪の降る前の散策も良いかもしれません。

※工事現場は重機が往来する等大変危険ですので、周辺散策の際は工事現場に立ち入らないようお願いします。

※左の写真は10月12日、右の写真は10月31日のものです。



10月12日撮影



10月31日撮影

下湯ダム

【紅葉状況】・・・見頃～終盤

下湯ダムは今が見頃です。下流側には緑・黄・赤の色のコントラストが多少見られますが、ダム湖やその上流域はほとんどが赤と茶色になっています。落葉する前の、見頃の終盤と言えます。近くに水辺公園やあやめ公園があるので、行楽にもおすすめです。

※左の写真は10月14日、右の写真は10月28日のものです。



10月14日撮影



10月28日撮影

浅虫ダム

【紅葉状況】・・・見頃です！

浅虫ダムは他の2ダムと比較すると標高が低く市街地と同じ頃に紅葉のシーズンになるため、今がちょうど紅葉の見頃を迎えています。近くに浅虫温泉もあることから、昼間はダム湖（ほたる湖）の紅葉を満喫し、歩いた後は温泉で汗を流すというのはいかがでしょうか？

※左の写真は10月14日、右の写真は10月28日のものです。



10月14日撮影



10月28日撮影

堤川・駒込川の橋梁あれこれ

5月号から連載している堤川・駒込川の橋梁紹介です。今回は右地図の赤枠で囲んである、晴雄橋、松桜橋、南桜川橋の3つの橋について紹介します。

晴雄橋は架け替えられているものの、その設置は明治時代に遡ります。また、松桜橋は平成14年に新たに設置された橋梁です。今回紹介する橋は、青森の歴史が詰まった橋と言えるかもしれません。



10. 晴雄橋



駒込川・堤川合流点から4番目に架かっている橋です。この橋の歴史は古く、「青森県立郷土館ニュース」によると、「明治時代に歩兵第五連隊が青森市浪打の練兵所に通うために設置されたもの」とのことです。当時は木造の橋でしたが、昭和44年の洪水の際に流され、現在は鋼橋となっています。

また、この橋の直線上には浪打から桜川までの道路が橋設置当時の位置のままで残っています。幅員は狭いものの、当時の面影が感じられます。

橋種：鋼橋
径間数：2径間

11. 松桜橋

駒込川・堤川合流点から5番目に架かっている橋です。歴史の古い晴雄橋とは逆に、竣工が平成14年という新しい橋です。この橋が架かる前は、桜川～松森・佃間を通行するには、福田橋や晴雄橋や次に紹介する南桜川橋まで迂回する必要がありました。この橋から西に向かうと青森市立筒井小学校・県立青森高等学校に至り、東に向かうと国道4号青森東バイパスに至ります。

橋種：鋼橋
径間：2径間



12. 南桜川橋



駒込川・堤川合流点から駒込川に向かって6番目に架かっている橋です。この橋の西側には南桜川団地があります。また、この橋の上流側には青い森鉄道の鉄道橋があり、駒込川で唯一間近で電車を見ることができるスポットです。

竣工：昭和54年9月
橋種：PC橋
橋長：52.7m
橋梁のタイプ：T桁橋（上路式PCT桁橋）
径間数：2径間
幅員：車道 6.2m 歩道 左0.0m、右1.5m
設置されている路線名：市道桜川九丁目1号線

おわりに

八甲田の木々も落葉し、そろそろ雪が降るのではないかといいくらい、朝夕の寒さが厳しい日が続いています。散策の際は、防寒着を忘れずにお持ち下さい。

「堤川・駒込川の橋梁あれこれ」についてのご意見をお待ちしています。次回は駒込橋、桐ノ沢橋、幸畑橋を紹介予定です。

※国道7号バイパスの「駒込川1号橋・2号橋」、青森自動車道については写真だけの紹介とします。ご了承ください。

平成23年度駒込ダム工事終了

駒込ダム工事現場は11月中旬に雪が積もり、長い冬の季節になりました。今年度の工事は雪の降る前にすべて終了しており、現在は来年の春を待っている状態です。そこで今回は、今年度施工した工事のビフォーアフターを紹介したいと思います。

1号工事用道路(拡幅)

県道青森田代十和田線と接続する部分です。既存の道路の幅員は約3mと狭く、ダム本体工事のための重機や資材の運搬に支障をきたすことから、今回の工事で幅員を6mに拡幅しました。また、路肩の法面部には、生態系保全と法面保護の観点から、現地の種子や伐木を利用した植生工を施しました。これによって外来種の侵入を防ぎ、周辺の生態系に合った植生になります。

before：現道が狭くて重機や資材が搬入しづらい。

after：幅員が広がったことで資材等の運搬路としての機能が向上。

after



8月2日撮影



before

1号工事用道路(法面)

現在ダム本体建設予定箇所に一番近い現場です。法面の地肌が露出し風化・崩落する恐れがあったので、こちらにも現地の種子や伐木を利用した植生工を実施しました。

before：法面に地肌が露出している箇所があり、風化・崩落の恐れがあった。

after：現地の種子や伐木を利用した植生工を施すことで法面を保護すると同時に、周辺環境と合う植生を創出。

after



8月11日撮影



before

残土処理場

工事用道路やダム本体施工時に発生する土砂を搬入する場所です。残土処理場入口から沈砂池までコルゲートフリュームを配置し、現地の雨水等が流出して周辺環境に悪影響を及ぼさないようにしました。

before：

1. 残土処理場内の、工事で発生する土砂を搬入するための道路が整備されていなかった。
2. 雨水等が流出し、周辺環境に悪影響を及ぼす恐れがあった。

after：

1. 場内の道路を整備し、搬入路としての機能が向上。
2. コルゲートフリュームを残土処理場入口から沈砂池まで施工することにより、雨水等の流出を防止。

after



8月25日撮影



before

堤川・駒込川の橋梁あれこれ

5月号から連載している堤川・駒込川の橋梁紹介です。今回は右地図の赤枠で囲んである、駒込橋、桐ノ沢橋、幸畑橋の3つの橋について紹介します。

幸畑橋より上流にも橋梁がありますが、駒込ダム建設予定地までの部分に架かる橋のほとんどが発電所等の管理用道路であるため、今回をもって駒込川の「橋梁あれこれ」は終了したいと思います。堤川の方の橋梁については別の機会に紹介します。楽しみに！



13. 駒込橋



駒込川・堤川合流点から7番目に架かっている青い自動車道橋で、堤川・駒込川に架かる自動車・歩行者用橋梁の中で唯一のトラス橋です。この橋とは別に、下流側に歩道橋があります。上流側には水道橋（写真手前・白藍色）がありますが、これもトラス構造をしています。

この橋の下流右岸側は、平成元年の洪水によって堤防が損傷するなど大きな被害を受けました。現在は復旧していますが、堤川・駒込川では過去に何回も洪水被害が発生していることから、河川の整備や洪水を防ぐための施設が必要とされています。

竣工：昭和38年12月
橋長：70.0m
橋梁のタイプ：鋼ワーレントラス橋
径間数：1径間
幅員：車道 6.6m
設置されている路線名：県道駒込筒井線

14. 桐ノ沢橋

駒込川・堤川合流点から8番目に架かっている橋です。9月号でも紹介しましたが、この橋はほぼ南北に向かって架かっています。この橋から北に向かうと青い森鉄道の跨線橋を経由し通称「藤田組通り」に至り、南に向かうと県道青森田代十和田線に至ります。

竣工：平成12年3月
橋長：77.2m
橋梁のタイプ：I桁橋
径間数：2径間
幅員：車道 7.0m 歩道 左4.5m
設置されている路線名：市道花園幸畑線



15. 幸畑橋



駒込川・堤川合流点から駒込川に向かって9番目に架かっている橋です。下流部には水道橋もあります。この橋から西に向かうと青森大学があり、東に向かうと青森第二養護学校があります。

竣工：昭和48年3月
橋長：100.0m
橋梁のタイプ：合成桁橋（活荷重格子合成桁橋）
径間数：4径間
幅員：車道 6.6m 歩道 左1.5m、右1.5m
設置されている路線名：県道青森環状野内線

おわりに

八甲田はついに長い冬が到来しました。駒込ダム工事現場の積雪は数cmと例年に比べ少ないのですが、気温が低く寒い日が続いています。来月号では駒込・下湯の積雪状況を紹介したいと思います。

駒込ダム建設予定地は雪化粧

駒込ダム建設予定地では11月中旬に雪が積もり始めました。その後雨によって数cmまで積雪深が減ったものの、12月に入ると一気に50cmまで積まりました。さらに中旬には2mを超える積雪深になりました。駒込ダム建設予定地周辺の積雪のピークはいつで、積雪深はどのくらいなのか……。今月号から検証していきます。

[目的]

駒込ダム建設予定地の冬期間の積雪状況を把握し、本体工事や本体完成後の管理等の際の参考情報とする。

[検証時期]

平成23年11月28日～平成24年3月

(現地調査を予定)

※積雪計での測定は平成11年から開始

測定箇所は右写真の赤丸箇所。標高620mの、気象観測装置設置箇所です。冬期間の現地でのデータ収集が困難なため、その代替として雨量計のある櫓の柱の一端に測量で使用する5mの測量用スタッフを設置し、積雪深を測定します。積雪が5m以上になった場合は、新たに高さを測定できるものを設置して対応します。



12月8日現在の積雪状況

12月8日に現地の測定をおこなったところ、50cmの積雪深でした。11月28日の積雪深は4cmなので、約2週間のあいだに46cm増加したことになります。

11月28日～12月19日の積雪状況写真



積雪深：4 cm
(11月28日撮影)

10日間で
46 cm
積雪



積雪深：50 cm
(12月8日撮影)

11日間で
155 cm
積雪



積雪深：205 cm
(12月19日撮影)

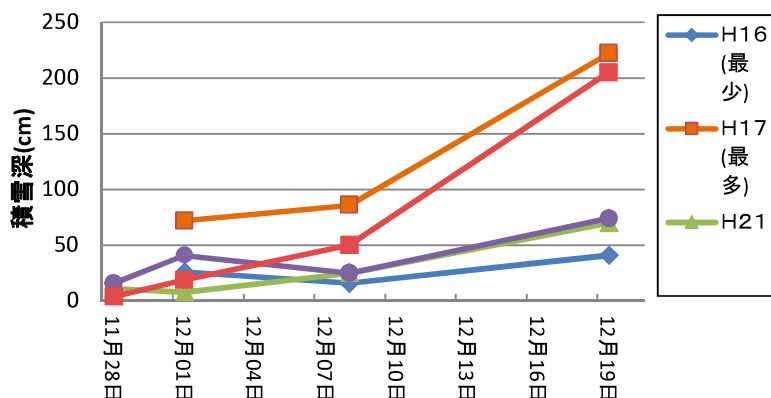
12月19日現在の積雪状況

12月19日に測定したところ、積雪深は205cmに。わずか10日間で150cm以上雪が積まりました。16日からのまとまった雪によって積雪が増えたと考えられます。また、右のグラフのとおり、建設予定地周辺の12月の積雪深としては過去3年間で最も多い積雪となっています。

気象庁発表の3カ月予報によると、1月、2月は雪の日が多い予報になっているので、来月初旬には2.5m以上の積雪になるのではないかと予想されます。

※グラフ中の「最少、最多」は、近年12月の積雪が最も少なかった年・多かった年を表したものです。

近年の積雪深推移



下湯ダムでも雪化粧

下湯ダムでは11月下旬に積雪が記録されたもののすぐに解け、12月初旬には積雪はありませんでしたが、5日過ぎあたりからだんだんと積もり始めました。ダム湖の湖面も結氷し始め、今後寒さが厳しくなるにつれ、取水口付近を除いて結氷します。

ダム湖の冬景色

[ダム湖の結氷始まる]



(12月15日撮影)

上写真の左側～中央付近に注目して下さい。ダム湖の水面を撮影したのですが、他の箇所と違い少し白みがかっているのが見えるでしょうか。

これは、湖の表面が凍る「結氷」という現象で、12月中旬にダム湖西側の艇庫付近でこの現象が始まり、12月20日現在ダム湖の半分以上が結氷しました。例年、1月中旬にはダム湖全域が氷に覆われますが、湖の水すべてが凍るわけではなく表面だけ凍結するので、発電・水道用水や自然環境保全用水の補給には影響しません。

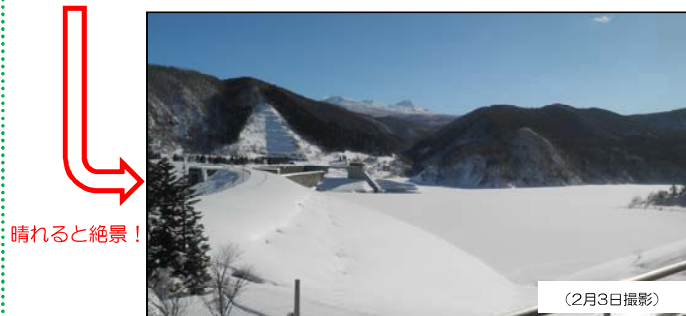
[晴天時のダム湖風景]



(12月20日撮影)



2分後、大雪に・・・



(2月3日撮影)

晴れると絶景！

晴天時のダム湖は、湖と周辺の山々が絶景を織りなします。特に無風の日は湖面に山々が映し出され、景観にアクセントを加えます。

1年を通して見事な景観を見せてくれるダム湖ですが、冬の晴天時の風景もまた格別なものです。

ちょっとひと休み

「ダム」という名称の語源はオランダ語であると言われていますが、英語やイタリア語などの他言語ではダムはどのように呼ばれているのでしょうか？

下にある6種類の言語と各言語のダムのつづりを、対応するもの同士結んでみましょう。(解答は来月号に掲載します。)

英語・	• Damm
フランス語・	• barrage
スペイン語・	• diga
イタリア語・	• baraj
ドイツ語・	• dam
トルコ語・	• presa

ちなみに、中国語では「壩(坝)」、韓国語では「댐」と書くそうです。



下湯ダム



浅虫ダム

おわりに

今年も残すところあとわずか。各地で地震や大雨等による激甚な自然災害があり、忘れられない、忘れてはいけない1年になりました。

ダム新聞は創刊から5年目で50号を突破しました。いろいろな節目の年となりましたが、来年も皆さんに楽しく読んで頂けるような紙面を目指していきますので、ご愛読のほどよろしくお願いいたします。

謹賀新年

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

「ダム新聞」発刊から5年、今号で56号となりました。

皆様には、駒込川に建設を進めている駒込ダムの進捗状況、また、私どもが管理している下湯ダム、浅虫ダムの近況やこれにまつわる話題をお届けしています。

駒込ダムはもちろん、下湯ダム、浅虫ダムを少しでも身近に感じていただければ幸いです。

昨年は、平成22年から行っていたダム事業の検証により、現計画案によるダム事業の継続が決定し、今年は、ダム本体の早期着工に向けて、工事用道路の建設を本格的に進めていきます。

職員一同、県民の皆さんの安全・安心のため、地域の皆様と心をひとつにして頑張りますので、今年もよろしくお願いいたします。



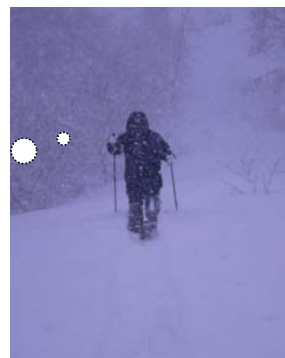
1月20日現在の積雪状況

1月20日に現地の測定をおこなったところ、342cmの積雪深でした。下の写真を見ると、気象観測装置のある5mの櫓が半分以上埋まっているのが分かります。また、前回調査時は新雪で調査箇所到達まで時間がかかりましたが、今回は比較的スムーズに調査箇所到達できました。

積雪深は、前回調査時から1ヶ月経過して137cm増えましたが、想定していたよりも少ない量でした。これは雪が自重により締め固められたものと考えられ、そのため、調査箇所への到達も容易だったのだと思われます。



観測地点まではスキー
やスノーシューを使って
向かいます。
結構な運動です！！



積雪深：4 cm
(11月28日撮影)



積雪深：205 cm
(12月19日撮影)

32日間で
137 cm
積雪



積雪深：342 cm
(1月20日撮影)

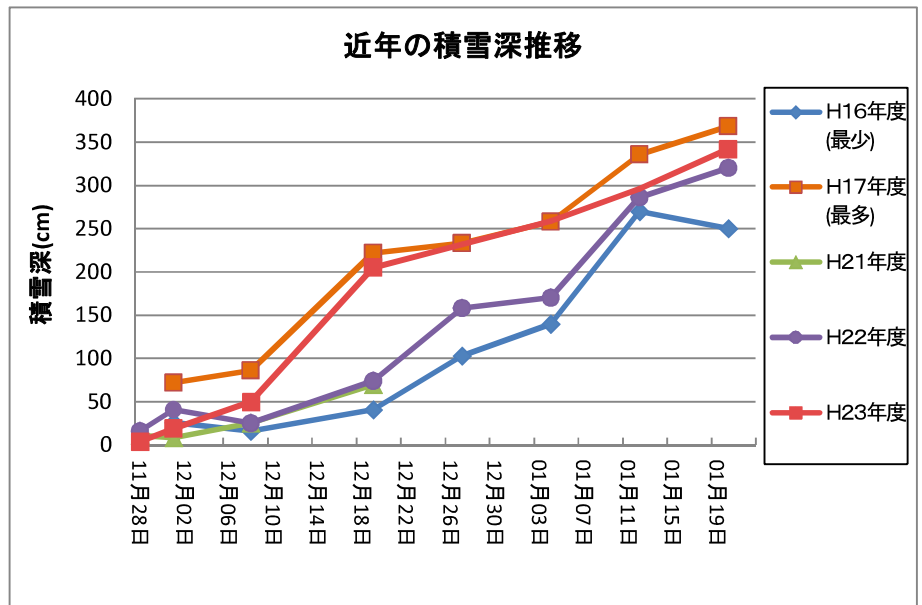
積雪深の推移から見る調査地の降雪の特徴

前号に引き続き、1月の積雪深の推移を近年のデータと比較します。

今月は6年ぶりに「青森県豪雪対策本部」が設置されましたが、観測地点でも近年トップクラスの積雪深となっています。前述のとおり、調査時には雪が締め固められていたことから、降雪量としてはさらに多かったものと推察されます。

近年の積雪の傾向として、1月上旬から急激に積雪が多くなることが分かります。さらに、調査地点付近の1月の積雪は、最少でも平成16年度に記録した250cmであることから、駒込ダム建設予定地周辺では少なくとも毎年250cm以上の積雪があるものと考えられます。

さて、気象庁発表の1カ月予報によると、2月は降雪量が多い予報になっているので、さらに積雪が多くなると予想されます。気象観測装置のある櫓がすべて雪に埋まるのも時間の問題です。



※今月の測定が20日のみになったのは、悪天候による視界不良で現地測定が困難だったためです。ご了承ください。

※グラフ中の「最少、最多」は、近年の積雪が最も少なかった年・多かった年を表したものです。

※H21のグラフについて、12月20日以降のデータは欠測により未記入となっています。

ちょっとひと休み

前号では「世界各国の「ダム」のつづりはどれ？」を出題しました。解答は下記の赤線のとおりです。

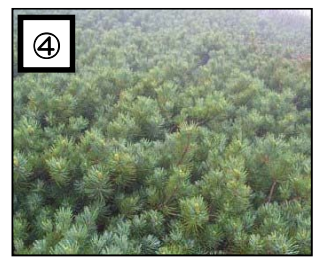
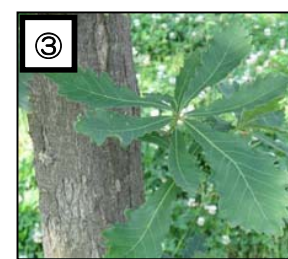
英語・	Damm
フランス語・	barrage
スペイン語・	diga
イタリア語・	baraj
ドイツ語・	dam
トルコ語・	presa

皆さん何問正解できましたか？

さて、今月の「ちょっとひと休み」は、下湯ダム・駒込ダムの水源である八甲田の樹木に関する問題です。

「八甲田周辺ではブナやミズナラ等の落葉広葉樹が広範囲に見られますが、標高が高くなるにつれアオモリトドマツやハイマツのような常緑針葉樹が目立つようになります。」

上記の文章で登場する4種の樹木。皆さんはどれがどれか分かりますか？右の①～④の写真がA～Dのどの樹木を指すのか当てはめてみましょう。



A：ブナ

B：ミズナラ

C：アオモリトドマツ

D：ハイマツ



おわりに

2012年がスタートしました。各地で低温・大雪と、冬将軍が猛威を振るっています。本年も「読みやすい・分かりやすい・親しみやすい」をモットーにダム新聞を発行していきたいと思っておりますので、ご愛読のほどよろしくお願いいたします。

青森市、7年ぶりに豪雪災害対策本部設置

青森市は2月20日、豪雪災害対策本部を設置しました。青森市では前日に今期最大となる152cmの積雪を記録しており、積雪による市民生活への影響が懸念されることから、先月から設置されていた豪雪対策本部を格上げしました。災害対策本部の設置は7年ぶり3回目、2月28日現在141cmの積雪を記録しています。

過去の豪雪から見る今年の豪雪の特徴

今年は平成16年度以来の豪雪となりましたが、今年の豪雪はどのような特徴があるのか、過去の豪雪時のデータと比較して考察します。

右の表－1（※青森市「平成16年度 青森市豪雪の記録」より抜粋）を見ると、今年の豪雪は過去の豪雪と比べ最深積雪・累計降雪量共に少ないようです。

しかし、表－2の平年値と比較してみると、降雪量は平年値を上回っていることが読み取れます。また、気温と累計日照時間を平年値と比較すると、逆にこちらは大幅に下回っていることが分かります。

以上の結果から、今年の豪雪は「平年以上の降雪と平年以下の日照時間・平均気温によって発生したもの」と推察されます。平年であれば降雪があっても気温や日照時間によって積雪が抑えられていたましたが、今年度は昨年12月から気温と累計日照時間が平年より大幅に下回ったため雪が解けず、断続的な降雪によってさらに雪が積もり、結果として豪雪となったものと考えられます。

表－1. 青森市における最深積雪・積算降雪量の順位

順位	年月日	最深積雪	順位	年度	積算降雪量
1	S20.2.1	209	1	S60	1,263
2	S52.2.8	195	2	S58	1,103
3	S61.2.6	194	3	S51	1,076
4	H17.3.3	178	4	S44	1,068
5	S35.2.19	166	5	H16	1,043
6	S59.3.8	165	6	H10	1,033
7	S49.2.14	163	7	H12	1,027
8	S57.2.10	159	8	S62	1,011
		・			・
		・			・
		・			・
H23年度	H24.2.19	150		H23	665

表－2. 青森市における降雪量・累計日照時間・平均気温の比較

降雪量の比較			累計日照時間の比較		
	平年値	平成23年度		平年値	平成23年度
12月	153	205	12月	52.8	31.5
1月	225	244	1月	51.3	47.2
※2月	176	192	※2月	69.8	50.7

月平均気温の比較

	平年値	平成23年度
12月	1.5	0.0
1月	-1.2	-2.6
※2月	-0.7	-2.5

※平成23年度の値は2月28日までの値

駒込ダム建設予定地積雪状況

青森市内では152cmの積雪を記録していますが、駒込ダム建設予定地周辺の積雪深はどのくらいになったのでしょうか。

2月13日に現地の測定をおこなったところ、436cmの積雪深でした。前回の測定値と比べると94cm増えており、測定箇所の櫓が雪に埋もれてしまいそうでした。

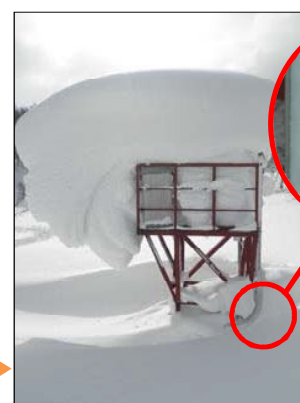
観測地点周辺の積雪も驚きですが、櫓上部の雪庇（せっぴ）の大きさにも驚かされます。1月20日に撮影した中央の写真と、2月13日に撮影した右側の写真を見比べても、その大きさは一目瞭然です。



積雪深：4 cm
(11月28日撮影)



積雪深：342 cm
(1月20日撮影)



積雪深：438 cm
(2月13日撮影)

24日間で
94 cm
積雪

積雪深の推移

前回に引き続き、近年の積雪深の推移をグラフに表します。

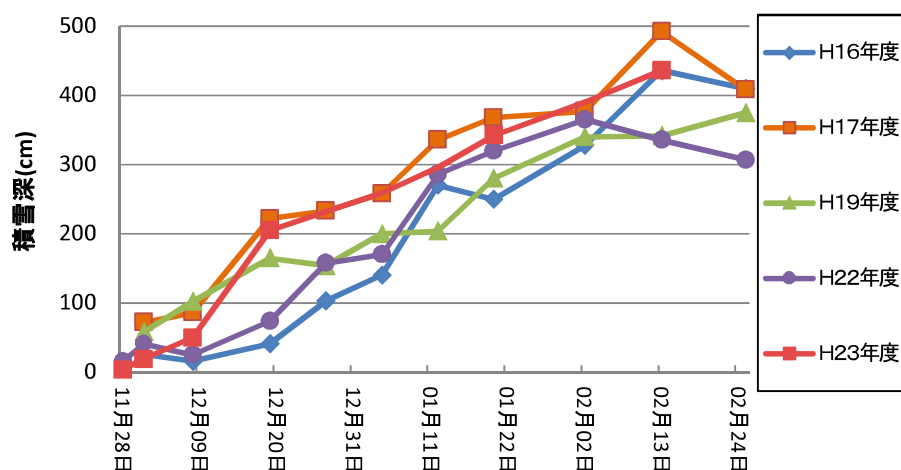
今月の測定は13日に行いましたが、近年の積雪深と比べると、多く推移していることが分かります。2月13日部分のグラフからも、近年で2番目に多い積雪深を記録しています。

3月からは雪崩・洪水に注意

気象庁の1ヶ月予報によると、「3月1週目の気温は低いが、2週目以降気温が高くなる見込み」とのことです。

急激な気温の上昇や降雨により、雪崩が発生する危険があります。また、気温が高く雨の日が続くと、今度は洪水にも注意する必要があります。

近年の積雪深推移



※今月の測定が13日のみになったのは、悪天候による視界不良で現地測定が困難だったためです。ご了承ください。

※H21のグラフについて、12月20日以降のデータが欠測のため、H19の値に変更しています。

※H16年度、H17年度のグラフについて、前号まで積雪量の最少・最大という表記をしていましたが、これは12月～1月上旬の降雪量についてを述べたものであり、今号からは積雪量の最少・最大値が当年度と合致しないため、表記を削除しています。

ちょっとひと休み

前号では4種類の樹木の名称についての問題を出題しました。解答は下記のとおりです。皆さん何問解けましたか？

樹木の名称は、その特性や特徴、地域性にちなんでつけられたものが多いことから、樹木を覚えて散策すると、普段とは違った楽しみ方が出来るかもしれません。



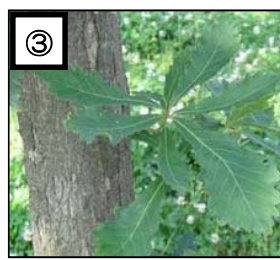
C : アオモリトドマツ

「オオシラビソ（大白檜 曽）」の別名で、「青森椴松」と書きます。八甲田や蔵王で有名な樹木は、アオモリトドマツへの着氷によって形成されます。北限は青森県で、青森市のシンボルツリーとなっています。



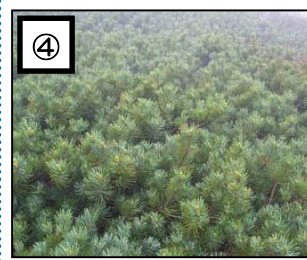
A : ブナ

世界自然遺産に登録されている白神山地のブナ原生林が有名です。単純林（1種類だけの樹木で構成される森林）は日本海側に多く、太平洋側では混交林（2種類以上で構成される森林）が目立ちます。



B : ミズナラ

「水分が多く燃えにくいナラの木」ということからこの名称になったと言われています。葉は楕円形でギザギザしています。



D : ハイマツ

「這松」と書き、字のとおりに地面を這っているように見えます。標高の高い地域に分布していること、独特な樹形をしていることから、容易に見分けることができます。

おわりに

前述のとおり、青森市では「豪雪災害対策本部」が7年ぶりに設置されました。雪下ろしや除雪中の事故が多発しておりますので、十分ご注意ください。

ダムの春はまだ先の話です。

下湯ダム・浅虫ダムも春の気配

3月は晴れの日が多くなり、雪解けが進んでいます。青森市の積雪深は3月27日12時現在76cmと、今年の最大積雪深152cmの半分にまで下がりました。これから日照時間の増加や気温の上昇に伴い、さらに雪解けが進みます。

雪解けが進むにつれ、動植物の活動が活発化し、ますます春らしくなりますが、同時に融雪による洪水や雪崩が心配されます。下湯ダムと浅虫ダムは、融雪洪水期にも洪水調節を行い下流域の洪水被害を防御します。現在ダム周辺は雪がようやく解け始めた頃ですが、それでもゆっくりと春がやってきました。そこで、現在の両ダムの春らしい状況を紹介します。

下湯ダム



下湯ダムのダム湖（平成湖）は、洪水吐き付近を除くほぼ全面が結氷しています。今後の日照時間や気温によって解氷の進み具合が変わりますが、例年4月中旬には湖面全域の氷が解けています。

また、下湯ダムに向かうまでの道路の斜面には、今にも雪崩が起こりそうな雪のかたまりやスノーボールが多々見受けられました。毎年雪崩が発生している箇所なので、注意が必要です。

※現在下湯ダムは関係者以外の立ち入りを制限しています。



スノーボール（斜面を転がる雪玉のようなかたまり）が頻繁に見られます。この現象は雪崩の危険性が高いことを示唆しています。

たくさんの動物の足跡が見られました。冬眠から目を覚まし、活動を始めているようです。



斜面の雪が道路のすぐ脇までせり出しています。いつ雪崩が起きてもおかしくない状況です。このような箇所が、下湯ダムに向かうまでに何箇所もあります。

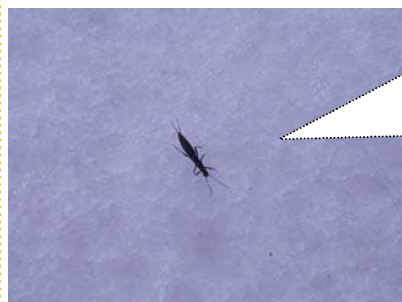
※写真の箇所は関係者以外立ち入り禁止区域ですので、絶対に立ち入らないようお願いします。

浅虫ダム



浅虫ダムのダム湖（ほたる湖）も、下湯ダムと同様ほぼ全面が結氷しています。解けている箇所では、右写真のような野鳥が休息していました。

浅虫ダムも例年4月中旬には湖面全域で解氷し、周辺の散策路も通行可能になります。今年は例年以上に雪が残っているので、もしかしたらゴールデンウィークまで路肩や散策路に雪が残っているかもしれません。



啓蟄（けいちつ）は暦の上では過ぎていますが、浅虫ダムの啓蟄はつい最近のことのようです。春になったのを察知した虫が雪の上を歩いていました。

カンムリカイツブリでしょうか。1羽だけですがダム湖で悠々自適に泳いでいました。冬鳥なので、これからどこかに旅立つための準備をしているのでしょうか。



駒込ダム建設予定地積雪状況

下湯ダム、浅虫ダムでは春の気配が感じられましたが、駒込ダム建設予定地付近から春の気配を感じるのはまだまだ先のようです。3月27日に現地の測定をおこなったところ、426cmの積雪深でした。観測所の雪庇は小さくなりましたが、積雪深は前回の測定値とほとんど変わっていませんでした。



積雪深：4 cm
(11月28日撮影)



積雪深：438 cm
(2月13日撮影)



積雪深：426 cm
(3月27日撮影)

春の山菜

暦の上では春なので、春らしい話題としてダム周辺に自生する山菜について紹介します。周辺は数mの積雪があり山菜採りの時期はまだまだ先の話ですが、山野草（スプリング・エフェメラル）と同様に春の山菜も雪が解けるのを待ちわびていることでしょう。

- ※ 毎年山岳遭難が多発していますので、山菜採りの際は十分お気を付け下さい。
- ※ 自然保護区等動植物採取禁止区域では**絶対に山菜等の採取を行わないようお願いします。**



ぜんまい
(蕨)

ゼンマイ科の多年生シダ植物です。食用になるのは新芽の時期です。語源は、新芽の形状が、銭が回転している「銭舞」から由来した説や、「千巻き」「銭巻き」が転訛した説など諸説ありますが、ゼンマイ仕掛けの「ゼンマイ」は、山菜の方のぜんまいに似ているということから名付けられたそうです。ぜんまいの食べ方は、あく抜き後おひたしや和え物、煮物にして食べるのが一般的とされています。



うど
(独活)

ウコギ科タラノキ属の多年草です。食用になるのはつぼみ・若芽・若葉の時期ですが、特に食べごろは若芽（写真）の時期と言われています。「独活の大木」という慣用語がありますが、これはウドが太く高さ2～3mまで育つ反面、軟らかいため用材にならないことから、「体ばかり大きくて役に立たない人」のたとえとして使われます。



わらび
(蕨)

ぜんまいと同様シダ植物の一種です。食用になるのは、まだ葉の開いていない若芽です。また、根茎から取れるデンプンを乾燥させると「わらび粉」になり、わらび餅の原料になります。ただ、わらび粉は収率が低いことから近年はほとんどのわらび餅が他の植物由来のデンプンによって作られており、本物の「わらび粉」で作られるわらび餅は大変稀少で高級品として扱われているそうです。



ふきのとう
(落の臺)

キク科フキ属の多年草です。早春に「ふき（落）」の地下茎から花茎が伸び出し、それが「ふきのとう（落の臺）」と呼ばれています。蕾が開花する前が食用時期です。津軽弁でふきのとうのことを「ばっけ」といい、ばっけ味噌は青森の春の味と言われています。

おわりに

春らしい暖かい日が続くかと思えば、雪が降ったり寒い日が続いたり、予測できない天候が続いています。寒暖の差も大きいので、体調管理には十分お気を付け下さい。